

まち全体まるごとスポーツに親しむことができる**場**へ

スポーツ・健康 まちづくりデザイン 学生コンペティション 2023



開催概要



スポーツ庁長官

室伏広治

現在、東京オリンピック・パラリンピック 2020 競技大会等を契機として、スポーツを巡る機運が全国各地で盛り上がりを見せています。

スポーツの力を活用した地域の諸課題の解決のための継続的な取組を推進するため、スポーツ庁では、2022 年 3 月に策定した「第 3 期スポーツ基本計画」に基づき、様々な事業・取組を推進しています。

スポーツ庁においては、現在、スポーツ施設のみならず、低未利用地（オープンスペース）や既存ストックの活用を促進し、スポーツの場の量的・質的な充実を図っているところです。中長期的な視点でみると、施設や場のデザインに加え、「都市デザイン」の観点を盛り込んだ「スポーツ・健康まちづくりデザイン」といった視点が求められてまいります。

まち全体がスポーツに親しめる場となり、どこでもスポーツに親しむことができる空間を実現するための第一歩として、今年度より、スポーツ・健康まちづくりデザインについて、学生からの多様で柔軟なアイデアを募集します。多くの学生に応募いただき、みなさまと一緒にこれからのスポーツ・健康まちづくりデザインの実現を目指していきたいと考えております。

応募のテーマ

健康的な日常生活のために心身に多様な変化を与える運動・スポーツを実施し、ライフパフォーマンスの向上（それぞれのライフステージにおいて最高の能力が発揮できる状態）を目指すことによって、健康の保持増進はもとより、QOL（Quality of Life, 生活の質）を高めることなど、生きがいのある充実した生活を送ることができるようになります。

“まち中”で、運動・スポーツが実施されている

スポーツ庁が実施している「スポーツの実施状況等に関する世論調査（令和4年度）」では、直近1年間に行った運動・スポーツの実施場所として、「道路」、「公園」、「自然環境」、「公共体育・スポーツ施設」、「商業アウトドア施設」等が多く挙げられており、まちの中でスポーツに親しんでいることがわかります。

まち全体で運動・スポーツができるようになれば、私たちのQOLが高まり、充実した日々を過ごすことができます。それでは、まち全体において、運動・スポーツに親しみやすい「場」をどのように作っていけばよいでしょうか。

まち全体が、運動・スポーツの観点でデザインされたものになれば、誰もが気軽にスポーツが親しめる世の中となります。

本コンペティションで、対象地や地域を決め、運動・スポーツに親しみやすい「場」となるよう、その場所や地域の10年後の未来を描いてみてください。

応募内容

○応募部門

①アイデア部門

- ・気軽にスポーツに親しむことができるようなまちなかでの行為（活動シーン）を実現するための空間デザインのアイデアを募集。
- ・空間デザインのアイデアとともに、まちづくりのソフト面の取組等も提案可。

②デザイン部門

- ・気軽にスポーツに親しむことができるようなまちなかでの行為（活動シーン）を実現するための具体的な空間デザイン（都市空間における建築・都市デザイン（ハード面））を募集。
- ・空間デザインのアイデアとともに、まちづくりのソフト面の取組等も提案可。
- ・図面（縮尺自由）、手描き、CAD、CG、模型写真等、平面なグラフィックが含まれていれば形式は問わないが、対象地における具体的な空間デザインとして評価ができる表現を必ず入れること。

○応募対象

- ・大学院、大学、短期大学、専門学校、高等専門学校、高等学校等に在籍する学生の個人またはグループ
※アイデア部門は複数点の応募は可。一方、デザインは1名につき1点までの応募とし、異なるグループでの複数の応募は不可
- ・応募される学生の専門分野は問わないが、建築・都市計画・ランドスケープ等空間を専門としている学生においては、「デザイン部門」での応募を推奨する。

○応募提出物

①アイデア部門

- ・プレゼンシート A3版（片面、横使い）1～2枚
- ・計画の要旨 A4版1枚
- ・上記のPDFデータ

②デザイン部門

- ・プレゼンボード A2版（片面、縦横自由）2枚
- ・計画の要旨 A4版1枚
- ・上記のPDFデータ

審査員（敬称略）



室伏 広治
スポーツ庁長官
※二次審査から参加



久野 譜也
筑波大学大学院
人間総合科学学術院
教授



高岡 敦史
岡山大学学術研究院
教育学域
准教授



花里 真道
千葉大学
予防医学センター
健康都市空間デザイン学分野
准教授



福岡 孝則
東京農業大学
地域環境科学部
造園科学科
准教授



三浦 詩乃
一般社団法人ストリート
ライフ・メイカーズ
代表理事
東京大学客員連携研究員



藤村 龍至
東京藝術大学
美術学部建築科
准教授
RFA 主宰

開催概要

告知開始（6月8日～）

- ・スポーツ庁 HP、SNS 等
- ・報道・PRTimes プレスリリース
- ・各国公立大学法人担当課／各文部科学大臣所轄学校法人担当課／大学を設置する各学校設置会社担当課へ周知
- ・UNIVAS 加盟大学（217 大学）へ周知
- ・都市計画学会のメルマガ など



全 7 回開催（オンライン）

- ・各審査員より情報提供、その後質疑応答（各 1 時間程度）

- 第 1 回 7/19 スポーツ庁・室伏長官
- 第 2 回 7/25 千葉大学・花里審査員
- 第 3 回 7/28 東京農業大学・福岡審査員
- 第 4 回 8/1 筑波大学・久野審査員
- 第 5 回 8/4 （一社）ストリートライフ・メイカーズ・三浦審査員
- 第 6 回 8/7 岡山大学・高岡審査員
- 第 7 回 8/28 東京藝術大学・藤村審査員



一次審査（10 月）・二次審査（11 月 10 日）

- ・一次審査は、応募作品にて書類審査し、アイデア部門 11 点、デザイン部門 5 点が二次審査へ
- ・二次審査は、大手町三井ホールホワイエにてプレゼンテーションを実施（アイデア部門 4 分、デザイン部門 7 分）
- ・最終審査会を経て、各部門のスポーツ庁長官賞、審査員賞、優秀賞を決定



長官賞（アイデア部門）
：九州共立大学



長官賞（デザイン部門）
：関西大学大学院

告知

事前エントリー

トークイベント

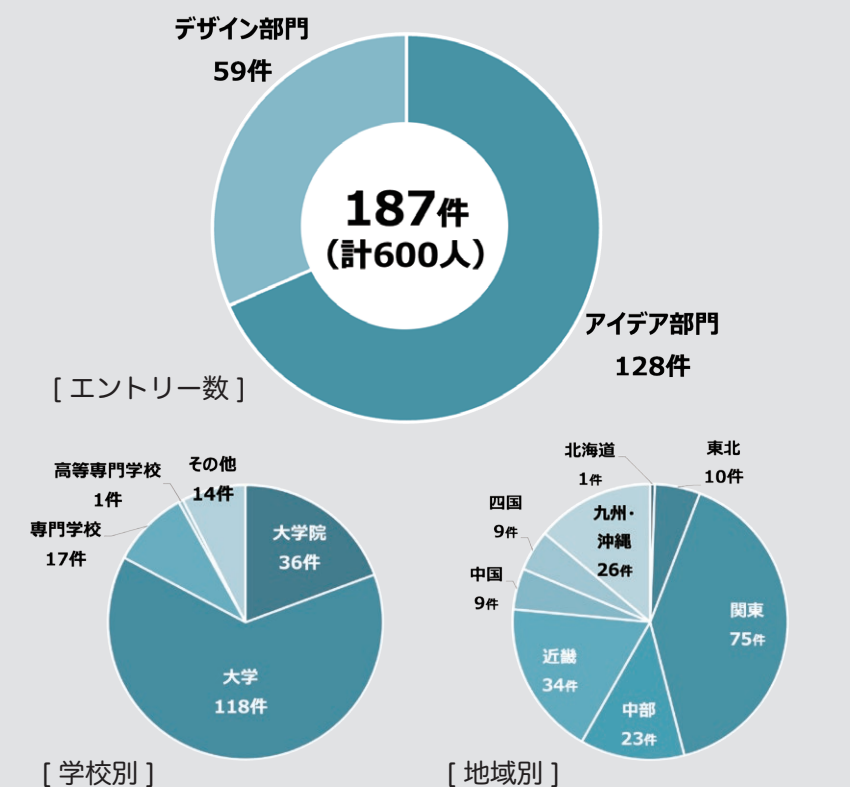
作品募集

一次審査

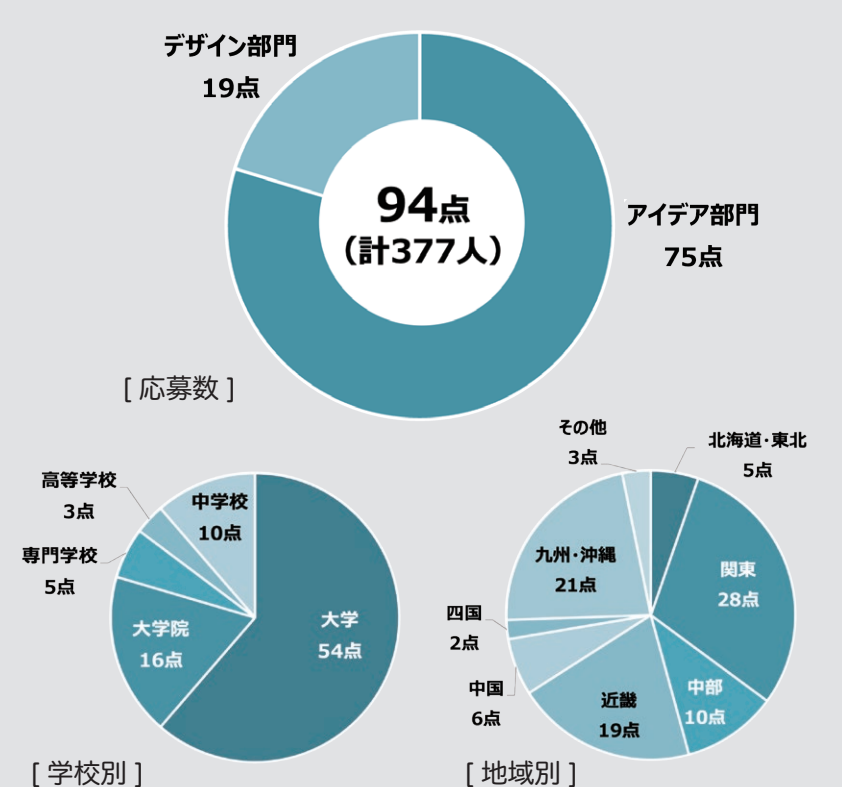
二次審査

受賞特典

事前エントリー（6月21日～7月12日）



募集期間（7月14日～9月20日）



「スポまち！長官表彰 2023」でプレゼンテーション

- ・スポーツ庁長官賞を受賞した 2 組は、「スポまち！長官表彰 2023」の授賞式において、プレゼンテーションを実施



各種メディアへの掲載



- ・スポーツ庁ホームページ、SNS
- ・スポーツ庁 WEB マガジン DEPARTARE
- ・日経アーキテクチュア（23 年 12 月 14 日号）
- ・月刊体育施設（2023 年 12 月号）

スポーツ庁長官賞を受賞した作品の提案自治体への提案

- ・アイデア部門は福岡県宗像市、デザイン部門は京都府八幡町の首長等に対して、受賞作品アイデアのプレゼンテーションを実施



受賞作品

スポーツ庁長官賞（アイデア部門）

先人たちが築いてきた「遊び」の文化を「身体」を使って次世代（未来）へ継承する

九州共立大学スポーツ学部・スポーツ学科
（橋口 采音、徳重 奈桜、長田 莉穂、田中 萌、牧島 彩華、飯盛 優和、吉元 大空）



スポーツ庁長官賞（デザイン部門）

男山スポーツビレッジ構想

関西大学大学院理工学部環境都市工学専攻
（岩田 博登、大倉 悠、中村 友昭、水本 佳吾）



久野譜也審査員賞

運動するためにコクライク！！
～歩行空間と低未利用地の改革提案～

北九州市立大学
地域創生学群・地域創生学類
（今中 星音、小船 あかり、佐藤 舜、水本 崇太）



高岡敦史審査員賞

コトマチ計画一児童遊園から始まる
能動的なまちなか場づくり提案

立命館大学理工学研究科
環境都市専攻建築デザインコース
（小磯 佑真）



花里真道審査員賞

～空き家から始まる～
まちのみんなのふらっと健康拠点

同志社大学
スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学科
（千野 春花）



福岡孝則審査員賞

Sports Life Balance
～東近江市 ver ～

びわこ学院大学
教育福祉学部スポーツ教育学科
（宗政 まほろ、森田 修馬、西村 陸翔、大野 凌雅、山崎 蒼大）



三浦詩乃審査員賞

日常をアクティブに
～まちなかスポーツストリート計画～

新潟大学自然科学研究科
環境科学専攻社会基盤・建築学コース
（市岡 翼、大石 真大、片柳 智稀、木口 佑星、鈴木 伶梓、中村 麻耶、廣川 葵、堀川 夏実、HAO ZHEHAN）



藤村龍至審査員賞

運動がしたくなる公園・街づくり

和歌山信愛大学教育学部子ども教育学科
（栗山 宗朋、上野山 隼、大嶋 颯、小林 彪我、佐々木 颯音、鈴木 智雲、藺田 千尋、田浦 唯衣、高瀬 菜七未、武内 優斗、中村 朱里、松根 琉生、山崎 理湖）



優秀賞

はい、ちーず。
～スポーツ栄養弁当と鎌倉の地形を生かした運動の提案～

鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科（大澤 ゆき乃、山下 恵実、青木 瑚夏、小野寺 祐美、倉島 梨理華、大内 希海、丸野 夢花、小野田 花、飯塚 奈緒、宮尾 莉子、松谷 翠々、川田 彩月）



宇都宮市における自転車による健康まちづくり

宇都宮大学地域デザイン科学部
コミュニティデザイン学科
（村上 愛海、鈴木 ひかり、水嶋 遥菜、君島 愛里）



MASHIKIWALK

熊本県立大学総合管理学部
総合管理学科
（松山 拓実）



Gosen "PUSH" PROJECT

新潟医療福祉大学
健康科学部・健康スポーツ学科
（宇野 帆人、川村 愛斗、永井 優、丸山 大）



ちょいスポしよう！
～放課後の学校校庭・体育館で行う運動～

帝京大学医療技術学部
スポーツ医療学科
（原田 郁也）



伊達（DATE）なボッチャのまち 仙台

東北大学公共政策大学院
（小林 京介、佐藤 多聞、菅原 大翔、宮平 ひなた、吉川 勇人、渡辺 薫子、鈴木 唯斗）



醸すまち～スポーツ健康文化の醸成と未来～

熊本大学大学院
自然科学教育部土木建築学
地域デザイン教育プログラム
（若松 雄希、井川 美果、宮崎 正采、山田 理矩、太田隈 美歩）



町とスポーツを縫う高架下

東京農業大学地域環境科学部
造園科学科
（原田 莉蘭、東出 涼、福田 萌瑛奈）



スポーツ庁長官賞（アイデア部門）

先人たちが築いてきた「遊び」の文化を「身体」を使って次世代（未来）へ継承する

九州共立大学スポーツ学部・スポーツ学科
（橋口 采音、徳重 奈桜、長田 莉穂、田中 萌、牧島 彩華、飯盛 優和、吉元 大空）

＜受賞コメント＞

この度は、素晴らしい賞をいただき、素直に嬉しい気持ちでいっぱいです。まさかスポーツ庁長官賞をいただけるとは思っていませんでした。この場をお借りして、室伏広治長官をはじめとする審査員の先生方、スポーツ庁関係者の皆様方に感謝申し上げます。私たちのアイデアは、第3期スポーツ基本計画に記されるスポーツの価値を高める新たな視点、スポーツを「つくる／はぐくむ」に注目し考案しました。今回のコンペティションに参加する中で、普段の大学の授業では味わうことのできない、全員で0からアイデアを創り上げることの楽しさや、考案したアイデアを人々に分かりやすく伝えることの難しさを知ることができました。最後に今回の受賞を励みに、私たちが提案した「10年後のスポーツ・健康まちづくりビジョン」の実現に向けて、大学生が主体となり、地域の方々を巻き込みながら、個々の役割を明確にし、活動を進めていきたいと思ひます。

＜提案自治体（福岡県宗像市）へのプレゼンテーション＞



○河野副市長

みなさんが実際にやってみて楽しいことを具体化し、そのアイデアが受賞されたこと嬉しく思います。市には、あまり使われていない公園等が多く、共同遊び場空間として活用していくことは良いアイデアだと感じました。成果だけではなく、どのようにまちを変えていくのか、住民を巻き込んでいくのかといった過程も大事にさせていただき、市としても実現に向けて協力していきたい。



スポーツ庁長官賞（デザイン部門）

男山スポーツビレッジ構想

関西大学大学院理工学部環境都市工学専攻
（岩田 博登、大倉 悠、中村 友昭、水本 佳吾）

＜受賞コメント＞

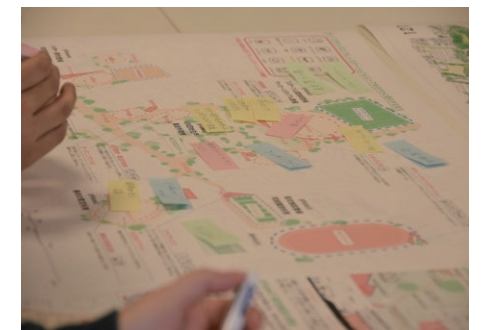
この度は、スポーツ庁長官賞を頂戴し大変光栄に思います。応援していただいた住民の皆様、先生方、地域コーディネーターの皆様のお力添えあってこそこの賞だと思っています。本当にありがとうございました。また、すばらしい発表の場を設けていただいたスポーツ庁関係者の皆様にも、この場を借りてお礼申し上げます。今回はスポーツ・健康まちづくりをテーマに団地再編について考えたことで、今までになかった新たな視点で提案することができたと思っています。まちの構造や仕組みをどのように変えていけば、健康なまちになっていくのか？ということに対して、たくさんの議論を重ねた時間は自分たちにとってとても貴重なものになりました。今回の経験を生かして、引き続き団地再編について考え、実践していきたいと考えています。この度は本当にありがとうございました。

＜提案自治体（京都府八幡市）へのプレゼンテーション＞



○川田市長

関西大学には、長年男山団地に関わっていただいております、その取組がスポーツという切り口で長官賞を受賞され、嬉しく思います。今回、学生と市職員でプチワークショップを行うこともでき、スポーツの幅広さと男山団地の可能性を再認識することができました。学生のアイデアを市の今後のまちづくりに取り入れていけるよう、取り組んでいければと思います。



久野審査員

2次審査のプレゼンテーションに残ったすべての発表は、予想以上に素晴らしく、すぐにでも取り入れられる内容であったことに驚きを感じたのと同時に、提案された学生の皆さんの能力のすばらしさに触れられた大変楽しい時間でした。第1回としては大成功で、今後これが恒例となって継続することにより、この分野に興味を持つ学生が増えることを期待したい。

花里審査員

スポーツ・運動とは何か。身体活動や社会活動とは何か。健康とは何か。健康づくりとは何か。私たちが生活する都市やまちはどのような状態で、それらにどのように関わるのだろうか。

コンペティションの参加学生は、これらの論点について思考、議論し、解決のための提案をまとめました。いずれも多様、複雑、固有で、しかしながら相互に関連している様相を提案のひとつひとつから感じました。すぐにでも実装しうる提案や、実行性は低いものの大きな可能性を感じる提案もありました。専門分化された領域での課題の多くは既に解決され、いま社会に残る課題は、多様な主体の協力、関わりが解決のキーとされています。それゆえに、スポーツ・健康まちづくりの推進には、専門や立場を超えたコレクティブ・インパクトが求められるのでしょう。

健康、運動、教育、都市、ランドスケープ、建築と多くの学術分野の学生が提案をまとめ、共に議論しました。本コンペティションそのものが、コレクティブ・インパクトを志向するスポーツ・健康まちづくりのひとつであったと総評します。

三浦審査員

初回開催ということもあり、特にアイデア部門では、率直に言って提案のレベルに大きく差が開きました。今年度の受賞者の成果がマイルストーンとなり、「同じ年代の人たちがここまで考えて、形にできるんだ」という希望や目標に繋がるでしょう。

最終審査のプレゼンテーションを行った学生の多くは、既に地域活動や産官学連携に関わりながらも更なる提案を進めようとする、高いモチベーションを持った方々であり、その志に敬意を表します。また、これを機に新たに活動を始めたいという学生たちも、その想いを、イメージや言葉でしっかり表現されていました。審査員間で審査中に意見が割れる場面も出てくるような多様なアプローチがぶつけられたことで、私自身、deportare（スポーツの語源）、つまり、「気晴らしや遊び、楽しみ、休養」を真ん中に据えることによる、これからのまちづくりの伸びしろを再認識しました。ここでのプレゼンを通じて、皆さんの活動に対して、地元やステークホルダーから支援が得られていくよう、願っております。

高岡審査員

コンペに挑戦して頂いた学生の皆様、そして指導された先生方やサポートされた関係者の皆様に感謝申し上げます。いずれも脳に汗をかけたことが想像できる計画でした。その分、審査は大変でしたが、こちら脳に汗をかかせて頂きました。ありがとうございました！

個人的には、学生コンペは企業コンペ等と違って、良い意味で過去の事情や業界の常識を知らないからこそ生み出せる自由さや新しさがあってほしいと思っています。ものすごいスピードで変わっていく社会は私たちの生き方を急激に変えています。20代前半までの柔らかに未来志向な思考は、間違いなく10年後の未来を創り出すものであり、それは既存知識の積み上げでは到達できない未来のはずです。そういう意味で、大学で学んだ知識を積み上げて計画するだけでなく、大学の先生から「なにそれ？意味が分らん。そんなの無理だ」と言われるアイディアをどんどん生み出してください！（大人から「いいね！」と言われるアイディアはたぶんもう古いです）今後の皆さんの自由な挑戦を応援しています！

福岡審査員

誰でも身体を動かし、健康になれる都市。まちの未利用地・既存の施設を活かしてスポーツに取り組みたくなる都市。

第1回のスポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティションが都市、建築、健康医療、スポーツ、ランドスケープなど多領域を射程に実施されたのは、時代の大きな転換点を示す出来事だと思います。世界では、Sports for All（すべての人が健康に）を実現する都市をつくるために、都市内の建築、公共施設や駐車場、道路、公園、広場などあらゆる都市空間において創造的、実験的な取り組みが展開中です。

本コンペティションを一過性のもので終わらせず、ぜひ基礎自治体や企業、大学や関係主体に働きかけ、一つでも多くのスポーツ・健康のための場が生まれることを期待したい。

藤村審査員

国土交通省のまちづくり施策では「ウォーカブル」がキーワードとなっているが、これはもともと2000年代のニューヨーク市の「タイムズスクエア」の改修や「ハイライン」の再整備など自動車のための空間を歩行者のために再配分し広場化したり、公園緑地を積極的に増やす取り組みが経済の活性化とともに健康面で成果を上げたことに着目したものです。

これまでではわが国ではウォーカブルの経済面での成果が強調されてきましたが、もともとは健康面での成果が強調されていたものなので、今回の取り組みをもとに新しい認識が広がればと思います。

